

出前講座「香りの科学」を終えて

平田 敏文

南海診療所（東広島市安芸津町風早）の大木 恵院長より、職員研修の一貫として講演の依頼があり、11月1日（土）にホテル・ヴァン・コーネルで開催された職員研修会で講演した。この研修会では、医療に関する専門的な課題を2日間に亘って研修するそうで、毎年、開催しているとのことであった。

医療関連の研修会ということで、従来の「香りの文化」、「香りの科学」の項目に加えて「香りの生理学」の項目を加えて、下記の内容について解説した。

(A) 香りの文化—香りの人間との係り合い

(1) 古代から使われている香料

(a) 古代エジプトの香り：「乳香」と「没薬」（香りのルーツを訪ねて）

(b) ギリシャ神話に出てくる香り：「薄荷」と「バラ」

(2) 日本の香りの文化

(a) 万葉集や古今和歌集に詠われた香り

(b) 歴史にみる貴重な香り：「竜腦」と「蘭奢待」

(B) 香りの科学

(1) 香気植物と香料植物

(a) 花の香りの三大女神：「ローズ」、「ジャスミン」および「ネロリ」

(b) 動物からの香料：「龍涎香」と「ジャコウ」

(2) 香りを決める化学物質

(a) マッタケの香り；バニラの香り；ワサビの刺激臭

(b) 香りの芸術—香水や食品フレーバーの開発

(C) 香りの生理学

(1) 香りの伝達機構：嗅覚器官と脳への伝達

(2) アロマセラピー（芳香療法）